

論文テーマ

サプライヤー企業のカーボンニュートラル
～自社製品の LCA・CFP への対応～

論文の主旨

大手企業を中心に GHG（温室効果ガス）の排出量算定が求められつつある。特に、GHG プロトコルの Scope3 と言われる、自社の外部での排出量算定の重要性が増してきている。

当時に、当該企業へ原材料や部品を提供しているサプライヤー企業には、ライフサイクルアセスメント(LCA)やカーボンフットプリント(CFP)を使用することが要求される。サプライヤー企業における、今後の戦略や競争力の源泉として、重要な要素となりつつある。

本論文ではサプライヤー企業における LCA、CFP の位置づけを明確にし、取り組み方法とポイントについて、具体事例とともに提言する。

まず、LCA のプロセスについて述べる。算定の原則である活動量の把握と排出原単位の考え方についても触れていく。

次に、提供する製品について BOM（部品構成表）を利用した算定方法について提言する。BOM では足りないデータを明確にするとともに、その収集方法や利用方法について述べる。

最後に、算定事例を紹介しながら、上記ポイントについて触れたい。ここでは、LCA で使用する一次データと二次データについても考察する。特に、一次データの取得が重要となる工程について検討するとともに、一次データの実測事例を示しながら、実測する時のポイントについても紹介する。

発表者の紹介

氏名	黒田 啓介	主任コンサルタント	生産・業務改革コンサルティング事業部
専門分野	生産性改善、5S、VM、現場改善活動、ISO、HACCP など		
コンサルティング歴	エネルギー管理士、中小企業診断士、LCA エキスパート 製造業を中心に生産性改善支援、品質管理、5S・VM の導入と推進、ISO マネジメントシステム構築		

氏名	木村 耕太	コンサルタント	生産・業務改革コンサルティング事業部第1部
専門分野	工場の収益改善、生産管理、現場改善、管理会計、原価計算、原価管理、生産設備の設計・開発、設計・開発リードタイムの短縮、生産工程の自動化		
コンサルティング歴	工場の収益改善、生産管理、現場改善、原価管理などのテーマを中心に、コンサルティング経験多数		